
そうきたか。

松本 りょう子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そうきたか。

【ISBN】

N8572

【作者名】

松本 じょう子

【あらすじ】

一日酔いの僕の部屋の窓を叩いてやってきたものは・・・。

「一日酔いで目を覚ました僕の、二階の部屋の窓をコンコンと叩くものがあった。」

「すみません。開けてください。」

天使だった。

「どうもどうも遅くなっちゃって、最近混み合ってねえ、どうも。」

「あの・・・。」

「山田さんでしょ。あ、これね！はい！」

天使は有無を言わせず僕に三十センチ角位のダンボールを渡した。

「確かに・・・。山田ですけど・・・。」「これは・・・なんですか。」

「えっ？何つて何よ？天使の輪に決まつてんじゃない。」

大丈夫。これは夢なんだ。昨日呑み過ぎたしなあ・・・。
四軒目は行かなきや良かつたんだよなあ・・・。

「ちよっとー何ブツブツ言つてんのー早くハンコーハンコ頂戴よ。」

「ハンコ？」

「そうだよ。受け取りのハンコー知つてんでしょ。あんたいくつで死んだの？全くもう。」

「あの僕は・・・」

「いいから早く。」

「うそ、これは夢なんだ。何でもいいや、ハンコ押して早く帰つてもらおう。」

天使は受け取りにハンコを押すと、

「まいどー。」

と、『機嫌で帰つて』といった。

天使が帰つた後もなかなか夢から覚めないので、僕は窓を開めてダンボールを開けてみることにした。

するとそこには天使の言つた通り、丸い蛍光灯のような天使の輪と「使用上の注意」という冊子が入つていた。僕は冊子を取り出してパラパラと捲つてみたがバカバカしくなつてもう一度寝ることにした。

変な夢だ。後で夢占いでもしてみよう。

そして僕が布団に潜り込もうとした時、またコンコンと窓を叩く音がした。

「すんませーん。開けてください。」

また天使だ。仕方なく僕は窓を開けた。

「いやあ、すいませんねえ。私間違えちゃつて。」

「はい?」

「お宅山田さんつていうからさあ。」

「それが何か?」

「違うんですよ、もう。四階の山田さんだったの一あなた三階の山田さんでしょ?」

「ええ、まあ・・・」

「どうりで輪郭が濃いと思いましたよ。あん、早速ですがねさつきの天使の輪返してもらつていいですかね。」

「あ、は、はい。じゃこれ。」

僕がダンボールを渡すと天使はそのまま窓を出て四階へ向かつた
ようだつた。

夢だよな。。まあいや、寝よつ。

目が覚めると部屋は薄暗くなつていた。随分寝てしまつたな。

その時ピンポンとチャイムが鳴つた。まさかさつきの夢みた
にまた天使だなんていうんじゃないだろうな。僕は一人クスリ
と笑つて、そしてドアを開けた。
そこには一人の男が立つっていた。

「あのお。。四階の山田ですが。。。」

「えつ？あ、どうも。」

「すいませんが、先ほど天使が忘れてつた『使用上の注意』を返し
て頂けますかねえ。

使い方が良く分からなくて、まだ天国に行けないんですよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8572/>

そうきたか。

2010年10月15日20時43分発行